

内視鏡、X線診断装置、ICU導入で 診断能力と術後管理が飛躍的に向上 地域の獣医療のレベルアップと充実を目指す

合同会社もうり動物病院

■事業

高精細画像診断と手術後管理の徹底による動物の救命率向上

■対象類型

革新的サービス

■導入機械装置

東京メニックス 動物用ICU-MENIOS、コニカミノルタ X線診断装置 AeroDR fine、
オリンパス 内視鏡システム EVIS EXERAⅢ

経営理念

- ・病気の早期発見および正確な確定診断を行い、手術後の管理徹底により救命率を向上させ、獣医療の発展に貢献します。
- ・診断治療の幅と選択肢を広げ、地域医療の高度化を目指します。

ペットの飼育が増加しているのに対応 病気の早期発見や術後管理が充実

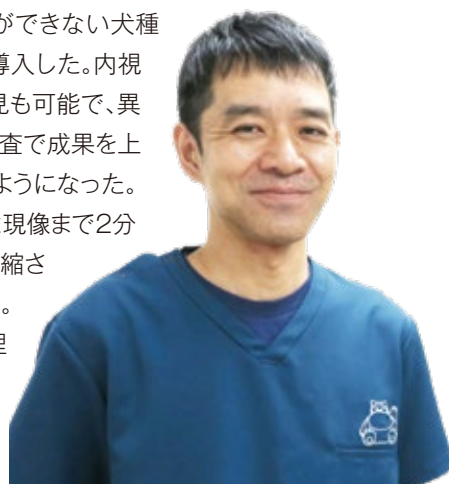
近年、コロナ禍にともなう在宅時間の増加に加え、一人暮らしの高齢者や単身者のペット飼育が増加傾向にある。ペットを家族の一員として扱うことが一般化し、ペットにかかる費用も高額化している。それに伴う獣医療の高度化、専門分野化が求められるなか、もうり動物病院は、補助事業により精度の高い「オリンパス内視鏡システムEVIS EXERAⅢ」、「コニカミノルタ X線診断装置 AeroDR fine」、「東京メニックス 動物用ICU-MENIOS」の3機を導入した。これにより、画像診断能力のレベルアップ、病気の早期発見および正確な確定診断、手術後管理の徹底による救命率向上、地域における獣医療の充実が加速した。

高性能な内視鏡診察で確実な診断と処置を可能に 速くて画質のよいX線撮影検査で病巣を早期発見

今回、導入した機種で最も重要視したのは内視鏡だった。開業当初から内視鏡を得意としていたが、元々使用していた機械のスコープでは、大型犬など対応できない犬種があったため、補助金制度を活用し、高性能な内視鏡の検査機器を導入した。内視鏡は動物の体を内側から調べるため、NBI機能によりガンの早期発見も可能で、異物を飲み込んだ際には摘出もできる。新しいシステムは、特に猫の検査で成果を上げており、ハイビジョン化により大画面でも鮮明な画像で診断できるようになった。

併せて導入したX線撮影のフラットパネルは、従来は1枚撮影すると現像まで2分かかっていたのが、1枚20秒で画像が出てくるため、時間が大幅に短縮された。また、画質も従来の機器より明瞭で、正確な診断につながっている。

動物用ICU装置は、3部屋でそれぞれの酸素濃度、温度、湿度管理ができ、従来と比較して、集中治療管理体制が確実に実施できるようになった。



院長 毛利崇



- 1 内視鏡システムEVIS EXERAⅢ
- 2 動物用ICU。手術後の集中治療管理体制が確実に
- 3 X線診断装置の使用で、速くて明瞭な画質に
- 4 新しいX線診断装置のフラットパネル

新機種を使いこなし、積極的な学会発表で より高いレベルの地域獣医療を目指す

地域の動物病院では、ワクチンを打つなどの穏やかな診察をする一方で、生死にかかわる重症の手術をするなど、軽重さまざまな病気を同時並行で診ている。そうした状況でも内視鏡の導入率は10%程度で、地方における動物の高度医療は進んでいるとはいえない。「都市圏では獣医師が複数でチーム医療を行っていて、CTやMRI検査など大きな設備を備え、大病にも対応できる病院が存在する。この地域だと、CT検査は県外の大学病院まで行かないと受けられない。これはとてもハードルが高いため、できるだけ地域にいながらしっかりと治療が受けられることを目標にしている」と毛利院長。

今回、導入した機器により検査や診断の精度が確実に向上し、高齢であったり麻酔に不安があったりする場合にも検査を進めやすくなり、病気の早期発見、適切な診断ができる確率が高まった。これを機に、県内外で積極的に学会発表等を行い広く情報発信し、より高い地域の獣医療を目指す。

Company Data

合同会社もうり動物病院



店舗外観

代表者名：毛利 崇
設立年：2017(平成29)年
資本金：1,000千円
従業員数：5名
主たる業種：技術サービス業
本社：〒690-0823 松江市西川津町4014
電話：0852-25-9935
URL：<https://mohriah.com/>